

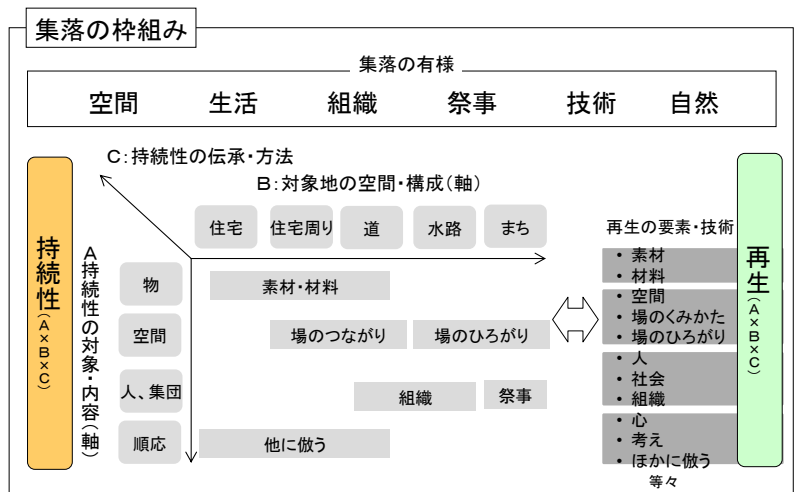
【報告題目】祝島集落と宮島集落、その持続性・集落再生へ

【報告者】西岡いづみ（広島工業大学・大学院生、同大・「地域・集落計画研究センター」研究補助者）



西岡さん：報告風景

- 第1回「宮島・土曜講座」にて、「祝島・宮島集落、その持続性（含、パネル説明）」と題して報告した内容をベースに、これに対して、この第3回での報告は、①持続性に関わる部分の内容について詳述する、そして更に、②そうした持続性から集落再生へ、という新たな内容を加える、等の2つの内容を追加し、全体的にまとめ直した報告であった。以下、当日の報告内容の内、特徴的な内容について、その概要を、記録しておきたい。
- 本研究での持続性の定義：「自然に順応しており、自然に多大な負荷を与えず、生活・空間等が維持・保全され続けること」としている。そして、地域には、自然環境を基盤とした物的環境と社会的環境が存在していること。それらの地域の持続性には、持続性の対象・内容と持続性を支えている対象・内容・心（心的背景）が存在していると考えられること。また、物的環境・社会的環境において、物の循環・空間・共助・共同社会・順応を伝承することにより、地域は独自の環境を持続し続けること。等々の視点を示した。
- 祝島集落の“まち”における持続性〔生活組織（株組織）〕について：祝島集落を形成するものとして、“惣・講・区・株・トウド”等の生活組織があり、これらが集落全体を形成している。株は、本来農業を生業とする形態であり、田畑を分け合って生活するための相互扶助的な存在である。その上で、株範囲の概念図を示した。それは、本家・分家、株の門（かど）、株の共同井戸、畑、株範囲を取り巻く練塀、道、上水・下水、等々の設定によるものであった。
- 祝島集落の持続性の内容・要因の関わりに関して：生活組織の「株」等に支えられながら、「練塀」や「祭事（神舞）」、「通り抜け」の道、等々が技術性に大きく関わりつつ存在していた。祝島では、空間・構成に係るキーワードが、列挙できた。
- 宮島集落の持続性の内容・要因の関わり（現段階での判明分）：宮島門前町（東町）では、空間・構成に係るキーワードが、列挙できた。現段階では、「通り」に属する「通り抜け・小路・路地、等」や、「祭事」等々の要素が、集落の持続性に係る重要な要素であるものと考えられよう。
- 祝島と宮島との比較・検討：祝島の道は、複雑に絡み合っている生活路地的であるのに対し、宮島の道は、表と裏が明確に分けられていた。宮島の場合は、「通り・脇小路・小路・路地」と段階的な道の構成があり、祝島の相互連関的な通り構成。更に、祝島では、「共」の意識、宮島では、どちらかと云えば、「個」的な意識が、集落を下支えているものと判断された。持続性の枠組みの検討の中で、それぞれの集落の特性が、浮き彫りになった。
- 集落の持続性から集落再生に向けた考察：「集落（持続性）研究」＋「集落再生支援」＝「祝島集落プロジェクト」との認識・概念が示された。「集落再生支援」については、「祝島集落“練塀”修復プロジェクト」の内容・実績が具体的に示された。
- 持続性と再生との関わり：右図が示された。
- まとめ：
 - ①集落は絶えず、独自の再生技術を持っていたこと、ほかは何もなかった
 - ②持続するためには、再生が必須であり、集落が持続的であることは、再生の仕組みを併せもって来たものと云えよう。
 - ③集落の自然環境・物的環境・社会的環境によって、再生の要素・技術は変化するものと云えよう。
 - ④そうした集落の特性に適合する再生を行うことが重要と考えられる。



【講話題目】 人の関わりによって紡ぎ出される生活景

【講師】 福田由美子氏（広島工業大学・工学部・建築工学科・教授）



福田先生：講話風景

■「人の関わりによって紡ぎ出される生活景」と題して、以下の講話がなされた。

■絵本『変わりゆく風景（毎年圧搾ハンマーでくりかえし打ちおろされる）』（イェルグ・ミュラー（スイス）作）から見られる「生活景」いうものの大事さ。

■「生活景」という視点について、

○生活景とは、「人間をとりまく生活環境にながめにほかならない。しかし、それは単なるながめではなく、生活環境に対する人間の評価と本質的な関わりがある」（後藤晴彦）。「生活景とは、生活の営みが色濃く滲み出た景観である」（同）。「「地域」と「景観」が最も身近な部分で結びついたもの」（小林敬一）。等々の概念である。⇒ ○現代は、その「生活景」が乏しくなっている。

○「生活景」を豊かにするためには、①人の姿が見える状況をつくる。②パブリックヒストリーを大事にする（場所の力付け）。③地域住民のアイデンティティや帰属意識を育む。等々が必要であろう。このうちの①、②について以下で説明。

■人の姿が見える状況をつくる～「水の都ひろしま」の取り組み：

○平成2(1990)年3月：「水の都整備構想」策定。

○平成15(2003)年1月「水の都ひろしま」構想・策定：

1)つかう～市民による水辺の活用。

2)つくる～水辺空間の整備とまちづくりとの一体化。

3)つなぐ～水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり。

■パブリックヒストリーを大事にする～原爆で失われたまちの復元プロジェクト～

○猿楽町をコンピューターグラフィックスで再現する試み。

○まちを取り戻す過程→パブリックヒストリーの再構築。

○パブリックヒストリーは、「場所の力」となる。

■まとめ：●「生活景」を創出するためには、

①多様な主体が景観をつくることに関わる。

②地域コミュニティによるマネジメント。

③そのための仕組みづくり。

●祭りはパブリックヒストリーの大切な題材となる。

●商売は生活景を作りやすい。

以上

〔講座・会場〕 広島工業大学・地域環境宮島学習センター：通称「宮島こもん」（旧・佐々邸）

〔同時開催行事：土間パネル展〕 …パネル説明 〔参加者数〕 30名（定員25名）

《記録：森保洋之》